

(1)児童の体力の現状

5年生について
○握力、立ち幅跳び、50m走、上体起こしで県平均を上回っている。
●課題としては男女とも柔軟性、女子は投力があげられる。

他学年について
男子
○2年の反復横とびでは県平均を上回っている。
○2、5、6年の50m走では県平均を上回っている。
●3年の上体起こしでは県平均との差が大きい。
●中学年のシャトルランでは県平均との差が大きい。
●6年の立ち幅跳びでは県平均との差が大きい。
●全学年、長座体前屈では、県平均を下回っている。

女子
○1～5年の握力では県平均を上回っている。
○2年の反復横とびでは県平均を上回っている。
○2、4、5年の立ち幅跳びでは県平均を上回っている。
○2、5年の50m走では県平均を上回っている。5年は大きく上回っている。
●全学年、長座体前屈では、県平均を下回っている。
●全学年、シャトルランでは、県平均を下回っている。
●6年の立ち幅跳びでは県平均との差が大きい。
●ソフトボール投げは多くの学年で県平均を下回っている。

(2)30年度の具体目標の達成状況と課題

・逆上がり達成率を4年生までに90%を目指し、全体平均を70%にする。
●4年生の逆上がり達成率は69. 5%、全体平均は60%だった。

・長座体前屈の記録を全校平均3cm上げる。
●市平均を上回ったのは、3年のみで全校として課題があることが分かった。

(3)31年度の取組【対策】

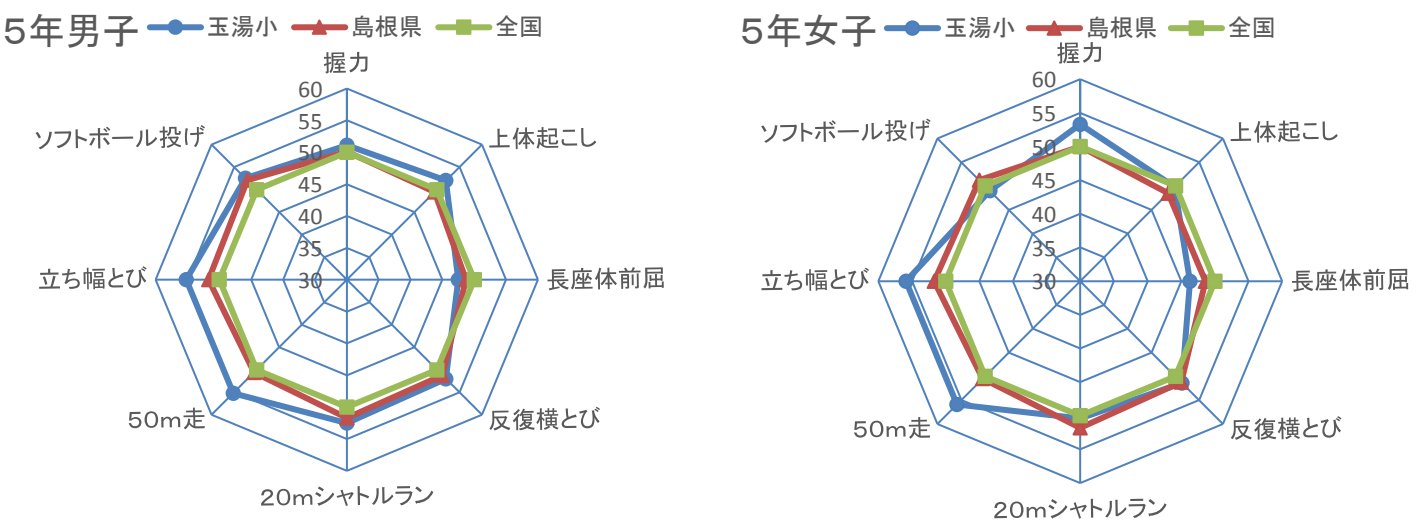
①学校における取組
・鉄棒遊びの推奨。鉄棒を指導する時間の確保や鉄棒の指導方法の共通理解の徹底を行っていく。
・全校ジョギングタイム・なわとびチャレンジタイムの実施の見直しをする。
・「たまゆっ子トレーニングメニュー」に継続的に取り組み、柔軟性を高めていく。
・「支える、バランス、逆さ・回転、柔軟性、投げる、走る、ジャンプ」の7領域を組み込んだ「玉湯サーキットトレーニング」を授業の中の準備運動として継続して取り組み、体力向上を図る。
・持久力や筋力の向上を目指して、「しまねっこ！元気アップ・トレーニング」を活用する。

②地域や家庭との連携による取組
・家庭との連携については、個人面談やプリント等で体力テストの結果を知らせ、一人一人の体力の現状について認識してもらうとともに、家庭での運動習慣の定着を図る。(文部科学省発行のリーフレット「運動能力・運動習慣等調査活用シート」の活用) また、夏休み・冬休みの前には、休業期間中の体力づくりへの積極的な取組を呼びかける。
・地域との連携については、社会体育の指導者・保護者との連絡会において、子どもたちの体力の現状を話題にしたり共通理解したりする中で体力向上に向けての取組について情報を共有する。

③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
・朝ごはん集会を実施し、朝ごはんの大切さについて知らせる。
・パワーアップ元気シートの記入により食生活に目を向けさせ、改善を図る。

調査実施者数(人) 1年(男子46・女子27) 2年(男子29・女子37) 3年(男子28・女子26)
4年(男子30・女子38) 5年(男子32・女子29) 6年(男子28・女子25)

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果

